

# 強者の戦略

こんにちは、北林です。さて、この問題みなさんはなんなくできましたか？

東大は過去の問題の対策が大事だという話を以前したと思いますが、今回もやはり近い問題、南北アメリカに関する問題が出題されているので、過去問は最後までしっかりやっておくべきですね。

## 類題

下記の設問に答えよ。〔 〕内に用語の指示がある場合は、それらを少なくとも1回は使用すること。解答は答案用紙の(ロ)の欄を用い、冒頭に(A)～(C)の符号を付して、それぞれ5行以内で記せ。設問

(A) ナポレオン戦争およびこれに続くウィーン体制の成立は、南北アメリカにいかなる影響を及ぼし、またどのような動きをひき起こしたか。

(東京大学1986年 抜粋)

主問は「18世紀から19世紀末までのアメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国の歴史について」、

副問は「その対照的な性格に留意しつつ、ヨーロッパ諸国との関係や、合衆国とラテンアメリカ諸国との相互関係のあり方の変化を中心に」

とあって、副問のほうが複雑な問いです。

また問題には「対照的」にとあり、ちがいを書けるかどうかとわれています。

問題には「政治的にも経済的にも」とあるので、経済も政治も双方とも書くのがいいでしょう。

で、ここで多くの受験生が見落としてしまうのが、合衆国なら独立前の18世紀に13植民地が自治をしていたこと、ラテンアメリカならスペイン・ポルトガルによって、きびしい支配におかれていたことなど、18世紀に関する記述。つい忘れてしまうんですが、みなさんはかけましたか？

細かな内容の解説は、今回もわざとやめておきます。まずは自分で挑戦してください。では解答例をのせておきます。

## 《解答例》

18世紀の合衆国は英植民地で、移民が13植民地を中心に植民地議会などの自治制度を発達させ、七年戦争などで仏より領土を奪って拡大した。ラテンアメリカはスペイン・ポルトガルなど西欧の植民地で、国王の支配下にあり自治はなく、白人がインディオや黒人奴隷を使役してプランテーションを経営していた。18世紀後半合衆国が英国の課税に反発、独立戦争で西欧の支援をうけて独立を達成、19世紀にはラテンアメリカが米独立革命や仏革命の影響を受けて独立、ウィーン体制保持のため西欧は干渉を試みたが、英は自由貿易主義から支持、合衆国がモンロー宣言を発して支持した。独立後、合衆国は州の自治を認める連邦制をとり、戦争や買収での領土拡大は続いた。また米英戦争で英から経済的に自立、南北戦争以後は工業化が進み、後には世界一の工業国となった。ラテンアメリカ諸国は独立後の領土拡大はなく、クリオーリョによる大土地支配で、英・米の経済的従属下におかれた。19世紀末にはパン・アメリカ会議で合衆国が影響力を強め、カリブ海政策をとり対外進出を本格化した。(450字)

さあ、できましたか？この問題は東大スパルタンで解説しました。興味をもったかたは、そちらものぞいてみてください。ではまた次回をお楽しみに☆

チーム・スパルタン 北林久忠